

大学等名 京都産業大学

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

京都産業大学全学共通カリキュラム委員会

(責任者名) 在間 敬子

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>全学部生に受講機会を提供するため、全学共通の「共通教育科目」として「データ・AIと社会」を開講している。令和6年度は春学期、秋学期ともに開講し、文系・理系によらず、すべての学部から春学期・秋学期を合計して3494名の履修があり昨、年度より履修者数が約1200名増えた。令和3年度からの累積で8480名と、順調に履修者が増加している。また、今年度の修得者数は3043名であり、履修者数に対する修得率は87%である。</p>
学修成果	<p>本科目は、データの数理的な扱いの基礎の修得や、データの収集法、AIの基本的な仕組み、社会におけるデータ・AI活用例、法的・倫理的な問題点、人間社会・職業への影響、その予想される将来など、学生が幅広く関心をもって学習できる内容としている。</p> <p>各回の小テスト(6点満点)の平均値は、春学期 5.3, 4.6, 4.5, 3.7, 4.2, 4.5, 4.6, 4.7, 4.7, 4.6, 4.7, 4.7, 4.7, 5., 4.9 全平均 4.6、秋学期 5.4, 5., 4.7, 4., 3.9, 4.4, 4.7, 4.4, 4.9, 4.8, 4.7, 4.3, 3.5, 5.1, 4.8 全平均 4.6 である。どの回も十分に理解が進んでいると評価できる。</p> <p>質問フォーラム(学生からの回答も可能)の質問数(学生からの回答数)は、春学期は 97(12), 38(8), 32(12), 19(3), 22(1), 24(5), 21(3), 14(0), 20(2), 13(1), 13(3), 10(2), 19(7), 14(4), 16(4) 総数 372(67)、秋学期は104(12), 66(12), 47(6), 34(1), 25(0), 24(3), 30(0), 22(0), 19(1), 21(5), 18(0), 16(1), 26(3), 23(12), 50(10), 総数 525(66) であり、自主的・積極的・双方向的な学習が出来ていると評価できる。</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本学では、全学期末に学生による自分の成長の実感に関する自己評価を行い、FDやカリキュラム改善に活用することを目的とした調査を、全学的に実施している。</p> <p>本調査における「授業の到達目標」の達成評価は、(達成できた。概ね達成できた。)について春学期:94%、秋学期:94%であり、本科目の到達目標を達成できたといえる。自由記述には「今まで全く聞いたことのないことなどが多く、知識が増え、大きく成長できたような気がする」という声もあった。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する情報を、新入生や在学生向けのHPや大学案内に広く掲載し、積極的に発信している。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本科目は講義科目、オンデマンド型授業で、1,000名の定員がある。履修希望者が定員を超えた場合も、質を保ちながら、受け入れを行い、春学期:1571名、秋学期:1975名の受講生があった。</p> <p>リテラシーレベルの「データ・AIと社会」と、応用基礎レベルの「データ・AI活用基礎」に加え、初級または上級の「データ・AI活用実践」のいずれか1科目、計3科目を修得した学生には、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの履修証明として、オープンバッジ(デジタル証明書)を交付することで、履修・学習の意欲を高める取り組みを行っている。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>当該プログラムを修了した学生の進路や活躍状況、企業等の評価については、今後、進路・就職支援センター等の他部署とも連携し、企業等の評価を把握できる体制を構築する。</p> <p>また、本学では、継続的に「卒業生アンケート」を実施し、卒業生の状況を把握している。今後この「卒業生アンケート」の中に当該プログラムに関するアンケート項目を含めることにより、修了者の状況を把握できる体制を構築する。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本プログラムを履修している学生が、キャリア教育センターが開講するインターンシップ科目などを履修している場合、インターンシップを行った段階で、インターンシップ先企業から当該プログラムに対する意見を得られる体制を整えていく。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	<p>リテラシーレベルのモデルカリキュラム（導入・基礎・心得）に準じた内容としながらも、全学部の学生が関心をもって学習できるように、7学部16名の教員により、「AIと視覚・自然言語」「AIの軍事利用」「クチコミ分析」など、数理・データサイエンス・AIに直結するテーマだけでなく、それにまつわる社会的側面についても幅広く触れる内容としている。</p> <p>授業内容に対する学生アンケートでは「授業で習ったものがテレビやネットの資料などに出てきた時に受講する前では分からなかったけど、授業をしたことで理解できたことがよかった」という回答もあり、数理・データサイエンス・AIについて学ぶことの楽しさ・意義の理解を深めることが、ある程度できていると評価している。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	